

保険薬局における安全管理(セフティマネジメント) ITを利用した調剤過誤対策でミスゼロを目指す



有限会社 ネオフィスト研究所
吉岡ゆうこ

訪問薬局

あすなる薬局



奈良県奈良市学園北1-13-8
主な受け入れ医療機関 個人病院、クリニック、他
取扱医薬品数 約1200品目
月間受取処方せん枚数 約3000枚
受け入れ医療機関数 約100医療機関

管理薬剤師 花戸 純 先生



薬局の受付、待合室
患者様向け情報提供の表示が整然とされている



店舗外観

CASE STUDY

ITを利用した調剤過誤対策でミスゼロを目指す

今回訪問しました薬局は、奈良県にありますあすなる薬局です。こちらの薬局は調剤ミス防止用のコンピュータ管理システム、バーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」の開発に携われた薬局です。なんといっても頻度の多い調剤ミスは、錠剤、カプセル剤などの計数調剤です。別物調剤、規格間違い、数量間違いなどがあります。人間である以上間違いがあるといってもかたづけられるものではありません。ヒューマンエラーはシステムで解決できれば一番です。「ITを使って、ヒューマンエラーを防止し、調剤過誤を絶滅する。」このスローガンのもと、2000年10月に「ミスゼロ子」の開発に着手、現場薬剤師の声を基にバージョンアップを重ね製品化され、現在は販売もされています。

システムの特徴

バーコードリーダーの画面上に、別物調剤、調剤漏れ（脱落）、数量、二重取り、などの表示が出て、機械上での鑑査をしてくれます。その他「類似医薬品名注意」「規格違い」ありなどの注意喚起表示、薬剤師ごとのピッキング履歴管理、充填履歴管理などができます。



調剤業務の流れ

1 レセコン処方入力

2 処方せん鑑査 および入力鑑査

3 ピッキング

① 担当者IDを入力

【担当者】

担当者【すずらん太郎】

OK

戻る

② 処方データを呼び出し

【ピッキング】
担当者【すずらん太郎】

患者名 薬局 花子

OK

メイン

③ バーコード読み込み

処方せんをみて普通通りに調剤しますが、医薬品をピッキングするときに、医薬品収納ボックスに貼ってあるバーコードをピツ（これは必ずケースを取り出してから読みとります。これにより、バーコードの読みとりまでは正しかったけど実際にピッキングしたのは隣のケースの医薬品ということが防止できます）。正しければ薬品名、数量が表示、間違っていればエラー表示がされます。



間違えた場合のエラー画面

【ピッキング】
担当者【すずらん太郎】

エラー
薬品を確認！

確認

④ 調剤終了

1行為、1行為、確認作業をしながら計数調剤をしていくという具合です。

4 最終鑑査の後服薬指導へ

管理薬剤師の花戸 純先生にお話をお伺いしました。

最初はバーコードリーダーを持つての調剤はめんどくさいという感じがありましたが、慣れてくると調剤の時間も変わりませんし、当たり前という感覚になりました。まず間違いがないので、最終鑑査者の心理的負担が大変軽くなりました。このシステム導入後の調剤ミスの発生件数は激減です。

訪問する前は、バーコードリーダーを持つての調剤はちょっと味気ないかなと思っていましたが、実際に見てわかりました。この薬局はあらゆる調剤過誤防止対策に挑戦した上で、なおかつミスゼロを目指しているのだと。これまで調剤過誤防止対策としてあげられ

ている項目はほとんど実践されていました。待合室は整然として、患者様への情報提供のための表示がしっかり貼られています。調剤室の整理整頓は行き届き、医薬品棚等への情報表示もきちんとされています。ソフトの充実の上でのさらなるハードの充実が感じられました。このミスゼロ子は調剤過誤防止三原則 1) 調剤室の環境整備 2) 新任者の教育 3) 調剤に集中するの基本的調剤過誤対策を実施した上で、どうしてもヒューマンエラーをゼロにできないという薬局に利用していただきたいものです。

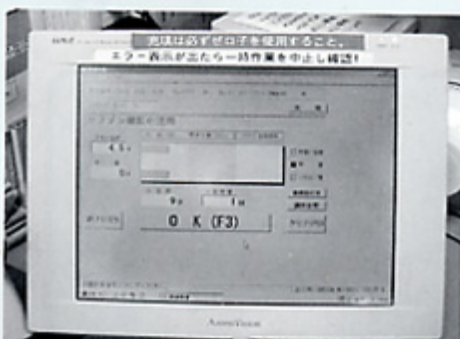
「調剤はソフトとハードとハート」とは調剤学の大家、堀岡正義先生のお言葉ですが、これからの時代、調剤の基本やところを大切に、ITシステムも取り入れていく必要があるのでしょうか。

散薬鑑査システム

別物誤り防止、秤量誤り防止、充填ミス防止、散剤の予製バーコード管理、添付文書参照、調剤記録のプリントアウト等の機能があります。



散剤鑑査システム



散剤鑑査システム。画面上のグラフ表示により一目でチェック可能



予製剤にもバーコード表示



糖尿病薬に重点管理品目の表示



医薬品棚への注意項目表示